

平成23年12月8日
絶縁油リサイクルセンター
安全性確認委員会（事務局）

第17回絶縁油リサイクルセンター安全性確認委員会議事録

1. 日時 平成23年12月7日（水）18:30～19:15
2. 場所 絶縁油リサイクルセンター 管理棟会議室
(広島市南区宇品東四丁目2番1号)
3. 出席者 委員10名, オブザーバー3名
(欠席: 委員1名, 顧問2名)
4. 議事
 - (1) 稼動状況
 - (2) 環境モニタリング結果
 - (3) 地震・津波に関する情報
 - (4) その他

5. 内容

【稼動状況】

- ・ J E M A油の処理等の増加に伴い, 当社想定保有量を見直し(約 29,000kL → 約 33,000kL) 11月末現在の累計処理量は 27,020kL である。
- ・ 保有量増加の内訳は(委員)
→ J E M A油が 2,000kL, 柱上トランス等の台数再調査による増加分が 2,000kL と想定している。
- ・ 保有量増加により処理期間は延びるのか(委員)
→ 処理期間に変更はない。
- ・ 昨年9月に発生した PCB 微混油配管のにじみ事象の恒久対策として3月に PCB 微混油配管取替を実施。
- ・ 震度6の地震により PCB 微量混入絶縁油受入作業中のタンクローリー車から火災が発生する想定で, 消防署との合同防災訓練を11月14日に実施。

【環境モニタリング結果】

- ・ 各項目とも基準値, 管理値を下回っており問題はない。
- ・ リサイクル処理工程変更により, PCB 分解済油を静置分離した分離水を乾燥して汚泥として排出していたものを液体として排出し, 廃棄物処理業者に引き取ってもらうため, 液状廃棄物の PCB 他分析を追加。
- ・ 処理済油分析で PCB が検出されているが, 調査会社の分析機器の精度向上により, 低いレベルの数値が分析できるということで, 分析結果は問題ない。(今岡会長)

【地震・津波に関する情報】

- ・ 東南海・南海地震が同時発生した場合の想定として、中央防災会議「東南海、南海地震等に関する専門調査会」（平成 15 年 12 月）出典の報告から、広島市周辺海岸での津波高さは、満潮時で標高+ (2~3)m, 平均潮位時で標高+ (0~1)m になり、これをもとに広島県が満潮時モデルで評価した広島県津波浸水予測図(平成 17 年 3 月)での丹那港周辺での浸水深さは、堤防が機能する場合「浸水しない」、堤防が機能しない場合には絶縁油 R C の一部が 0.5m 以下浸水すると想定されるが、過去の最高潮位(平成 3 年 9 月 27 日台風 19 号による標高+2.85m)時に東南海・南海地震が発生しても、防潮堤(標高+4.18m)は最高潮位より 1m 以上高いことから津波は防潮堤を超えないと考える。
- ・ 仮に津波が防潮堤を超えても、PCB 微量混入絶縁油タンクの防油堤(標高+5.27m)は防潮堤より 1m 以上高く、SD タンクや槽類はさらに高い位置に設置してある。
- ・ 現在、広島県において評価の見直しがされていると思われるので、結果が公表され次第、再評価する。
- ・ 説明にある堤防とは、図面上ではどの部分を示すのか(今岡会長)
→ 防潮堤を示す。
- ・ 基本的には防潮堤を含め、地震の揺れに施設が耐えられるかが問題で、本施設はバッチ処理を行っており、連続的に PCB 微量混入油、SD が入ってくることはなく、仮に停電等が発生しても被害は極めて小さいと考える。
(今岡会長)

【その他】

○広島市の立入り検査報告

- ・ 前回の報告(平成 22 年 12 月 8 日)以降、施設への立入検査の結果、いずれの立入検査においても施設の運転・管理面で問題はなく、適正に維持管理されている。
- ・ 立入検査は 1 回/2 か月、定期に実施しており、施設に対する苦情等あれば、その都度、立入検査を行う。
- ・ 広島市による雨水排水およびプロセス排気の行政検査は現在分析中であり、雨水排水については速報として異常なしの連絡を受けている。
- ・ 分析結果については最終結果を受け取り次第、センター通信でお知らせする。

○緊急時の連絡体制および運用等の変更について

11 月 29 日に「絶縁油リサイクルセンターの運用」記載事項を見直した。

- ・ 委員会の開催を「4 回/年」から「原則 1 回/年」に修正
- ・ 連続測定(オンラインモニタリング装置)結果報告を削除

- ・維持管理情報の当社ホームページへの公表を追加

以 上